

～こうべバイオガス活用設備が完成しました～

2008年2月15日

2008年2月8日(金)東水環境センター(東灘処理場)でこうべバイオガス活用設備完成式典が開催されました。式典は矢田立郎市長をはじめ関係者約100名が出席して行われました。テープカットの後、4月以降「こうべバイオガス」を利用予定の事業者代表で設備の起動ボタンを押して、参加者全員の拍手の下、設備が稼動し始めました。



下水処理の過程で発生する消化ガス(メタンガスが主成分)を精製し、天然ガス自動車の燃料として使えるように、より純度を上げたのがこうべバイオガスです。全国の多くの下水処理場ではガスを発電エネルギーとして利用していますが、東灘処理場では隣接するクリーンセンター(ゴミ焼却工場)からの電力を使用しているため、自動車燃料として有効利用を進めることにしました。



ガス精製設備

消化タンクで発生した消化ガスはメタン約60%。精製設備で濃度98%まで純度を高め、「こうべバイオガス」として供給します。



消化タンク

タンク内は約39に保たれ、下水処理過程で発生する汚泥をガスと水に分解し、汚泥量を少なくします。残った汚泥はバイオガスを燃料とするトラックで汚泥焼却工場(六甲アイランドのスラッジセンター)に運びます。

下水処理場から生まれたガスで、市バスなどが市民の生活を支えるために走るという、エコ燃料の地産地消です。また、こうべバイオガスはバイオ(生物)由来のエネルギーであるため、年間1200トンのCO₂排出削減が見込まれます。

3月末まで試験運転を行い、4月からバイオガスステーションでガスの販売を開始する予定です。現時点では、市バス(交通局)・下水処理場の汚泥(脱水ケーキ)運搬用トラック・食品配送・宅配便トラック等の利用が見込まれています。(写真は式典当日にこうべバイオガスを充填する市バス)



5月24日から26日まで神戸市ポートアイランドでG8環境大臣会合が開催されます。こうべバイオガスなど神戸市の取り組みを世界に発信する絶好の機会であり、この会議で利用される車にもこうべバイオガスの利用が検討されています。

また東水環境センター(東灘処理場)では、2008年3月23日(日)に第6回アーモンド並木と春の音楽会が開催されます。アーモンドの花とイベントを楽しんでいただくと同時に、下水処理場見学やバイオガスで走る車の展示なども行われます。